

40 県民行動プログラムの検証活動

【き】 第2期地域ビジョン委員会のスタート!

平成15年度から、阪神北地域ビジョンの「多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる」ための県民行動プログラムを検証するため、活動を始めました。

【概】 冒険広場の開催を通じて

平成15年10月、猪名川町つつじヶ丘自治会とともに、こどもの冒険広場を開催しました。ドラム缶風呂や竹筒での飯炊き、木工遊びなど、子どもの遊びを通じて地域の人々の交流を図りました。



ドラム缶風呂

地域への冒険広場のノウハウの提供を通じて、次から自分たちでそのノウハウを自由に活用してほしい、というのが私たちの狙いでした。

【成】 地域でプログラムが様々な形で展開

つつじヶ丘での取り組みを皮切りに、川西市多田コミュニティでは、ドラム缶風呂や竹筒での飯炊きのノウハウが地域防災の取り組みの一つとして取り入れられ、同市大和地区でも同じような取り組みが生まれつつあります。また、平成16年9月には、川西市北陵地区でも子ども会が冒険広場を開催しました。このように、私たちは地域に活動のためのプログラムを提供し、地域主体の活動を広げています。

【夢】 地域の自立と相互扶助を推進したい

ドラム缶風呂を防災に生かそうとする地域のように、1つの活動を多方面から見ることによって、地域独自の活動につながります。柔軟な発想で、既成概念に捕われず、地域でプログラムをさまざまな方法で活用してほしい。これから、そのためのお手伝いを新たなNPOとして、活動団体が開設しました。

地域ビジョン委員としての活動は今年度末で終了し、ビジョン委員会での活動をさらに発展させ、DPC(防災とプレーパークのセンター)として、新たな活動を行います。

DPC
(防災とプレーパークセンター)
Disaster and
Play Park Center

代表者氏名:小川 紀之
事務局担当:赤松 弘揮
活動地域:主に日本国内
事務所等:伊丹市瑞ヶ丘4丁目1-14
HSMHouse1階 TCC内
電話番号:072-777-8066
FAX番号:072-777-8076



竹筒での飯炊き



簡単に長続きするプログラムが必要です

冒険広場を開催したとき、地域の方たちは「子どもが怪我しないようにしないと」とか「遊び道具をあれもこれも用意しないと」とか、ものすごく大げさに考えていました。

私たちはそんな彼らに、「当日は必要最小限のものしか用意なくていいですよ」と伝えました。実際、必要な遊び道具は、子供たちと一緒に、地域の町工場等に廃材をもらいに行ったり、スーパーにダンボールをもらいに行ったり、ということで対応しました。怪我也少しくらいしてもいいじゃないですか、とも言いました。

私たちの目的は、この冒険広場の開催ノウハウのように、地域の人たちが「手間をかけずに、楽しく実践でき、長続きできるプログラム」を提供することです。また、冒険広場から防災意識を身近に感じることができるようなプログラムも作成しています。

インスタントラーメンは安くて簡単で、手間がかからないから、消費者に愛され続けています。私たちの目的も、地域にインスタントラーメンのようなプログラムを提供し、それを自由に調理（＝アレンジ）してもらうことなのです。



行政と腹を割って話し合うための「場」づくり

最初、私たちライフスタイルグループは、地域ビジョン委員会の目的は何か、というのを委員会全体で共有しなければならないと思いました。単に委員が実践活動をして、それに対して県が助成するというふうを考えている委員の方が多く思ったからです。それでは県民と行政の協働という意味でも対等ではありませんし、不十分です。

そこで、各グループの代表者が集まり、委員会として情報の共有と意思の統一を図り、それを行政に対して発信する場として、連絡調整会議を立ち上げました。

連絡調整会議を通じて、たとえば「もっと予算を効率的に使おう」とか「委員がもっと自立しないとイケない」とか、お互いにとって耳の痛いことも言い合いながら、少しずつ情報をオープンにし、風通しを良くしていくことができました。

読者の皆さんへのメッセージ

地域で頑張っている皆さん、これから頑張ろうとされている皆さん。できないことを考えるよりも、まずできることから実行していきましょう。

99のできない理由を探すよりも、

今できる1を実行できれば、道は開けるものなのです。（赤松語録）